

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	リニア開業を見据えた交流人口増加による地域経済活性化事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人駒ヶ根観光協会 0265-81-7700
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,745,480 円 (うち支援金 : 4,715,000 円)

事業内容

- (1) 観光地域ブランディング確立事業 インフルエンサーを講師に情報発信講座を実施。ニューノーマルを見据えたツアーのマーケティング調査分析を実施
- (2) 地域の食文化資源を活用した需要拡大事業 地域の料理人・農家・生産者・酒造メーカーと連携し、コース料理を提供する「みなこいグランシェフの会」を発足
- (3) 地域経済循環支援事業 域内経済循環を目指し、みなこい地域の米・麦・果物等生産者と、メーカー・観光事業者をマッチングさせる「域内商談会」を実施
- (4) 着地型旅行商品化支援事業 旅行商品を販売するためのPRツールを作成
- (5) 情報発信強化事業 みなこい地域HPを作成した

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 地域の食文化資源を活用した需要拡大事業
みなこいグランシェフの会 1回開催 14名参加
会を発足し、令和3年度以降も開催することが決定
- 地域経済循環支援事業 域内商談会 1回開催 24名参加
令和3年度は新型コロナウイルス感染症の状況で規模を広げて開催していく
- HP制作 www.minakoi.jp www.minakoi.jp/en
「Things To DO?」旅行者がみなこい地域で何を体験できるのかの記事を中心としたコンテンツ造成に力を入れた

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

新型コロナウイルス感染症の影響で、観光客が激減し深刻なものとなっている。感染症対策を徹底し、まずは県内を中心としたマイクロツーリズムの取組が必要と考えられる。当面は観光バスなど従来のマストツーリズムではなく、マイカーで移動する個人客を中心となる。今年度事業化させていただいた地域の食文化を活用した「みなこいグランシェフの会」を高付加価値商品として、富裕層に販売をおこなう予定である。また、スマホ利用を最優先したみなこいのホームページについて、体験記事を中心とした構築をおこなったので、次年度以降さらにコンテンツ記事を増やし、域内の経済循環をねらう。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【域内商談会の様子】

【目標・ねらい】

- ①地域ブランディング
- ②地域一体となった旅行商品造成
- ③多様な関係者の巻き込み
- ④情報発信の一元化

※自己評価【B】

【理由】

- ・緊急事態宣言発令を受け、中止する事業もあった。
- ・チラシ、動画、のぼり、ホームページとみなこい地域を発信する情報インフラを準備できた